

ニテメナケシエ河ニ投込ニ申候私ハ夫ニハ關係不仕旨申候
 一 夫ヨリ繩有之候ニ私合添小寶御役所ハ相届ケ申候
 一 私ハ一時之出張ニ見聞ノ俣申上候委細善松ヨリ御聞
 相成候ハ事柄能ク相分リ可申候

右ハ御尋ニ有御相違不申上候

明治七年五月二日

竹田兼兵衛印

榊太州兼濱住土人

バホウノ申口

一 メノコキイリ人ノ為ニ殺サレニ事ニ自先達テ小寶實ニ罷越
 申候
 一 同所ニテ魯西亞士官ヨリ被呼候ニ有罷越申候
 一 士官ヨリ尋候ニハキイリ人メノコヲ殺シタル事ハ何レヨリ表
 リ候哉ト申候ニ有東富間アイロフニ海浦住居ノキイリ
 人キバヤニト申モノ土人家ニテ酒ヲ吞ミ居ル処ニテキバヤニ
 申ニハメノコヲ昨秋後エラビニシヤラセニエワシニ三人メナケシ

ニテキイリン人ノ住家ニ連レ行キ五日ノ間留置強姦ニ最早
死人モ同様相成候ヲ河中へ投込ニ申候趣兼リ候

一 士官之尋ニキイリン人ヲ捕ヘニ行キシハ誰カナルヤト申候ニ付
私事トシトリ、イクトシニ并シヤモト参リ申候キイリン人ヲ取

押ヘシ第ハ私ハ足ヲ押ヘトシトリハ右ニキイリン人ヲ押ヘシ善松イリ
トニシハ左ノキイリン人ヲ押ヘシ善松ニ廻サントセシ処キイリン人自

由ニナラサル故善松脊中ヲ鑢ノ裏ニテ毆テ候ハキイリン人後へ
廻シ候故擲メタル旨ヲ相答申候

一 夫ヨリ如何セシ哉ヲ被問候ニ付雪車トシトリ、キイリン人ヲ乘
セ東留間會所へ連レ参リ候旨相答へ候

一 東留間へ連レ参リ候第ハ日本人ノ頭タルモノ居リシ哉ヲ被
問候ニ付竹田義兵衛居合候趣相答へ申候

一 夫ヨリ如何シタル哉ヲ被問候ニ付キイリン人ヲ柱ニ括リ置タ
ル旨申候

一 通辨誰ナリ哉ヲ被問候ニ付私通詞イタシ候旨相答へ
申候

一 毆ツタモノハ誰ナル哉ヲ被問候ニ付善松毆テ候由トシトリ
取ノ上ヲカヲリニテ毆候必白状イタシ候

一 シヤモハ何人居リシ哉ヲ被問候ニ付シヤモハ四人アイノハ
澤山居リタル旨答へ申候

一 エワシニ子ヤラセニ而人ニテ殺シタルヲ白状セシ旨相答へ申候

一 白状致シテヨリ如何ヒシ哉被問候ニ合白状セシヨリ繩ヲ解

腰繩ヲ合置候旨相答へ申候

一 番ヲ合ケシヤヲ被問候ニ合私并トシトリ、イクトニ三人番

ヲ致シタル旨相答へ申候

一 夫ヨリ如何シタルヤ被問候ニ合夫ヨリ雪車ニ乗セ小賣入

相送り申候旨相答へ申候

一 雪車ニハ誰乗セシ哉ト被問候ニ合クワニ乗セタル旨申答候

一 送ル節シヤモニテ合添タル哉被問候ニ合竹田合添タル旨

相答へ申候

一 其節ノソハ澤山来ルヤ被問候ニ合沢山ナリト答へ申候

一 通詞竹田兼兵衛云フ此雪車之澤山ナル牧野雅

云丞アイロフヨリ引揚候モ一所有之候故ニ御坐候

一 汝如何シテ来ル哉被問候ニ合徒歩ニテ来ルト答へ申候

一 小賣来リ如何シタル哉被問候ニ合繩合之俣役所ニ連行

タル旨相答へ申候

一 役所ニテハ如何シタル哉被問候ニ合役所ニテハドウモイタシ

不申亦段モ不致候

一 小賣来リ繩ハ如何シタル哉被問候ニ合繩ハ腰ニ合俣ナリ

ト答へ申候

一 役所ニテ調之節誰カニ通辨セシ哉被問候ニ付三田村通辨
致シタル旨相答へ申候ぬモ通辨ニ加ハリ候へ共何ニモ白状
不致候ト答へ申候

一 誰カ調ベシヤ井上様調へ申候旨答へ申候

一 調ベル節殿タルヤ被問候ニ付殿ナハ不致旨答へ申候

一 夫ヨリ如何シタルヤ被問候ニ付楠溪へ送り候旨相答へ申候

一 其節誰カ雪車ニ乗セタルヤ被問候ニ付トトリ一所ニ乗セ

楠溪へ参り候旨相答へ申候

一 縛リテ送りシヤ被問候ニ付縛リテ参リ不申旨答へ申候

一 夫ヨリ如何致セシヤ被問候ニ付會一所へ入置候旨相答へ申候

一 夫ヨリ如何致セシヤ被問候ニ付敬言羅屯一所へ連レ行キ候旨
答へ申候

一 夫ヨリ如何シタルヤ被問候ニ付翌日ニ或リ屯一所ニテ取調有之候
ト相答候

一 誰カ調ベシヤ被問候ニ付田中様待尋相成候旨相答へ
候

一 夫ヨリ如何シタルヤ被問候ニ付繩ヲ掛ケ候旨相答へ候

一 誰カ繩ヲ掛ケシヤ被問候ニ付羅辛之頭分ナルモノ繩ヲ掛

ケ候旨相答へ候

一 夫ヨリ何ニテ殿ナタル哉被問候ニ付羅辛之頭分竹ニ糸之

卷キタルモノニテ殿子候旨相答へ候

一 如何シテ調タルヤ被問候ニ有兩子ニ繩ヲ掛ケ取調有之旨相答へ候

一 夫ヨリ如何致シタルヤ被問候ニ有繩ヲ解キ足ニ輪鐵ヲハメ申候旨相答へ候

一 夫ヨリ如何シタルヤ被問候ニ有夫ヨリ不知ト相答へ候

一 小實ニテ魯舎へ被呼士官二人名ハ知リ不申通詞ハ子ヤ子コフニ御坐候

一 子ヤ子コフニ通辨ニテ被取調候

一 四月二十三日私一人魯舎へ参り申候

一 相尋候節ハ殿モ何モ不致候

一 楠溪ヘキイリン人ヲ送り参り二日ヲ経テ子ヤ子コフ并海浦

ニキイリン、子ヤ子二人来リ連レ行キ眼鏡ヲ掛ケタル士官

ニ家ニ至リ申候其所ニ居ルモノハ一リセツトニコフ、子ヤ子コフ

并キイリン人子ヤ子并捕ヘ来リシヤラセニ御坐候

一 子ヤ子コフヨリ尋子タルニキイリン人ヲ日本人心ヲ合セ縛

リタル上ヨリ申候ニ有キイリン人ヲ縛ルモ其原カナクテハ

不相分則是ニ居ル子ヤ子能ク義知有同人ヲ調ベテ

私ヘ御咄シ有之ヨリ相答へ候

一 キイリン人調へ候へ共魯舎西並語ニテ私ニハ分リ不申亦

私ハ何ニモ咄シヲ通シ不申候

一 其日牢屋ニヨウナル家ニ連レ行申候

一 翌日夕方楠溪ヘ引取申候

一 此間小實ヨリ當地ヘ参リ候翌日ヤチコフ来リ連レ行

キ腹ニフクレタ士官外ニ二人居リ候テ尋又ルニメノコ分テ

又ヨウニ成リテ何ケ月ニ成ルヤ被問候ニ合六ケ月ニ成ル旨相

答ヘ候

一 アイノ、妻カ赤ハ日本人ニ關係ニ婦人カ被問候ニ合

イヤニ申モノ、家内ニ有ニ旨相答ヘ候

一 何レノメノコナルヤ被問候ニ合ヲチヨボカニメノコト

相答ヘ候

一 死ニタモノ、夫ハ何レニ居リ候哉被問候ニ合ヲフサキト

申一所ニモノナルト相答ヘ候

キイリシ人小屋焼拂并テニニ皮盗取一件申口

ト左ニ通リ

一 當二月頃東富間アイロフ土人ニ飯小屋有ニ右ハ漁獵

ニ第ニ参ル処ニテ其餘ハ明家ニ有ニ候故キイリシ人ハ獵

セシモノ止宿所ニヨウニ致シ居リ申候其第ハヤラセニ

住一所ニイタシ居候ニ有遊ビ旁相尋タ刻引取申候

一 キイリン人ニ其地ニ参リシ時ハヤラセシ一人ニテ私宅ニ飯リ
 其跡ニキヤン海浦ヨリ参リ候由ニテ右ニ西人ニテ私
 方ニ参リ私ニ引取後キイリンニ住ム家焼ケテシノ處
 焼ケタル由知ラセ候ニ付驚キキイリン人同道ニテイキヤン
 キナイニ参リ見候ハ家ハ其低アリ其家ニ入り見レハ好縁
 焼ケ居候ハ其皮類其他ニ品モ其低ニ有テ候
 一 キイリン人ニ申ニ此夜泊リテ行カサルヤ泊レバ馳走ヲ
 スルト申候ニ付是ハ如何ナル事ヲ為モ難計且一人ニ事
 ニ付泊リ事ヲ断リ引取申候
 一 此度小賣ハ参リ候ニ付曾舎ハ参リ候節ガヤチコフヨリ
 テンニ皮ヲ盗ミ小屋ヲ焼タト申候ハ其敷候ハ共言ハサレ
 バ半ニ入ルト申タリ
 一 ガヤチコフ又申ニ小屋ヲ焼キテンノ皮ヲ盗ミタルト申セハ
 後ニ至リ六ヶ敷事無テト申候ニ付小屋ヲ焼キ皮ヲ盗ミシ
 ニ相違無テト申答ヘ候
 一 全ク半ニ入ラレルヲ恐レテ致サ又事ヲ致シタト申候

東富間役主人

エライル申口

一 イキヤンキナイニ在ルキイリンニ借リ小屋ハ焼ケタル事ハ

片抄在村太支屋

無之候其借り家ハ老土人ニ漁獵之節用ニル家ニ有之候

竹田某兵衛申口

一 上ライル之申ス通無相違候

一 キイリシ人ニ住ニ居ル小屋ハイチヤニキナイノ沼際ニテ

土人ニ秋ニ成リ候ハハ銚ヲ取ル節ニ入用ニ為ニ候小屋ヲ建

置候也ニテ平常ハ明家ナレハキイリシ人住ニ居ル事ニ掃

聖候アイロフ之土人家ヨリ一里半斗リモ有之候

右節尋ニ相違不申上候

明治七年五月二日

バホウリ丸印

差添人

會所支配人代

鈴木久三郎印

東宮間役主人

上ライル丸印

通詞

竹田某兵衛印

用石使筆人支屋

東富間領主人

トシトリ申口

私之妹ハ名ハケトシケ年ハ十八ニ相成申候

昨年十一月中頃ニ會^ハマシ^テ傷キ居リ尤モ會^ハマシ^テヨリ^テ其カ

迄ニ里モ隔リ居候処ニ有^ル東富間ハ私諸共出^テ縁イタシ居候

処キ一月中旬頃ヨリ不相見故家ニ皈^リシ事ト存居申候

四五日ヲ経^テ不相見候ヘ共其^レ候尋^テモ不^レ致候内高白^ク様御直

行^ニ申人豆トシテ小^ノ突ヘ参^リ用濟^ニテ東富間ハ皈^リ候処矢張

不相見候ニ有^ル私宅ヲ尋^テ候ヘ共不相見候ニ有^ル一^ツ所ニ尋^テ参^リ

メナクシ^テキイリシ人ニ^テ金^ノ候ニ有^ルメ^ノコヲ不^レ知^ルカト尋^テ候ヘハ

不知^ル趣^ニ有^ルキブシナ^クハ掛^リ洞泊直相尋^テ候ヘ共不相知^ル然^レ

度東富間番人源兵衛ト申者楠^ノ渡ヘ参^リ居候ニ有^ル同人ト

同道^ニテ東富間ハ皈^リ申候

皈^リ見候ヘ共妹不相見宅ニモ不^レ参^ル由^ニ申人一人ヲ連^レ又々ナ^ク

ケシ領ヘ尋^テ出^テ申候其^レ節雪モ降^リ候ニ有^ル足跡モ有^ル旦キイ

リシ人ニ^テ査^シ候ニ有^ル其^レ足跡ヲ行^キ候処キイリシ人テニトウヲ

張^ル其^レ外^ニテ火ヲ焚^キ居^ル処ヘ参^リ申候

其一^ツ所ニキイリシ人兩人居^リ申候

土人ノメ^ノコハ不知^ル哉相尋^テ候ヘ共不知^ル旨申^答候

日モ夕暮^ニ有^ルキイリシ^ニエ^テ處ヘ兩人トモ泊^リ申候